

が「社会の正義と公正の実現のために自分の生命をかける」と言って司法の道を選ぶのと全く同じ水準の厳粛な選択のゆえに、教師は今ここにいるのだ。だとすると、自分の自由な決定によってもたらされる一切を引き受けることは、教師の責任範囲に属することになる。

教職は、一步間違えば子どもの心身を傷つけかねないほど危険な、それゆえたえず緊張を求められる、苦勞の多い仕事である。しかし、それに耐えることは、教師が自分の生き方として教職を選択したさいの運命的黙示であった。教育は、子どもの人間性と教師の人間性との邂逅点で営まれる。教師は、みずからの生命力を内面から紡ぎ出し、それを子どもから引き出した人間的可能性と結び合わせる。教育は、まさしく人間の・人間による・人間のための仕事であり、人間性に対し最短距離のところで遂行される営為である。それは、人間がみずからの生涯をかけて従事するに値する仕事ではある。それだけに、この聖なる営みに参加する教師が研修によって高水準の教育資質と技量をつねに新鮮に保持することは、ゆるぎなき至上命令である。研修の必要性は、教職という厳粛な職業選択に論理的根拠をもっている。

また、現代の文明状況も教師の研修を要求する。経済社会の発展、科学技術の高度化、情報化社会の出現、高齢化社会の到来、多様な価値観の林立、環境問題の発生など、人類をめぐる文明状況は目まぐるしく変動している。教育は、この変動に待たなしの対応を求められる。環境教育、コンピュータ教育、国際化教育、福祉問題への取り組み、生命倫理やエイズ問題の主題化など……。社会状況の急激な変化は、学校の果たすべき役割をたえず肥大させ複雑化させる。教師は、文明状況への多忙な対応を求め

られる。教師の研修の必要性は、変動する文明状況に論理的根拠を有している。

一昔前なら、大学を出るまでに蓄積しておいた知識と技能を効率的に小出しすれば、教職の日常をまかなうことができたであろう。しかし現在では、せっかく体得した知識や技能の有効期限は大部分が数年どまりである。学校教育の現場では、知識と技能の消耗度は極めて大きいとみなければならない。教師がみずからの教師資格を保持し続けるためには、知識と技能をたえず交換し補給しなければならない。変動する社会は、教師に研修による自己変革つまり教育資質と技量のたえまない向上を求めている。教師に対し周期的に繰り返されるリカレント教育としての研修カリキュラムは、時代と社会に論理的根拠をもっている。

教育の内容と水準こそは、民族と国家の運命を決定する。これは、まごうかたなき事実であり真理である。教師は、教員免許の取得者として教壇に立っている。このことは、社会の進歩と発展に必須の教育という仕事を社会から委託され、教育機能の責任ある担い手になっていることを意味する。つまり、教師は社会の教育機能の人格的表現態なのだ。社会の進歩と発展は、教師の資性と能力の水準に依存することになる。その意味で、未来世代の教育に従事している教師は、日本の進歩と発展の行方を決定する仕事への重要な関与者なのである。このため教師は、重要な仕事に関与する主体的条件をつねに整備しておく必要がある。研修によって教師は、みずからの教育的資質と力量をたえず右上がり向上させ、それを新鮮かつ活力ある状態に保っておかなければならない。日本の将来の帰趨に教師が深く関与しているという事実もまた、研修の必然性を論理的に根拠づけている。